

天正記

三



記列河發向代事



丈大志やうき信長公一夫此風振りまゝり
なまおたやりやうき信長公一夫此風振りまゝり
くまの事しよるやうき信長公一夫此風振りまゝり
はたうひいまのあまの敵たふ老のたりいもんや
遊園よとりてやうき信長公一夫此風振りまゝり
もつ乃事しよるやうき信長公一夫此風振りまゝり
れぬ軍信をそ一語たりうと候まぐみ是証河たん
とんうれみらきりあうとてそ山のりんふよく國
のたんまゝりあれふとてつうと包らまゝり
欲軍らん志ゆするりたりとてそ山のりんふよく國
りたれ人殺とるぬさうのりたりとてそ山のりんふよく國

つりまのたて終前の大向小向は舟とまゝ一りの
こやくをけりしあのかたわすくさまやくし
くしつりのゆるよてうさまやくしつて一ちやく
とこびくとまめゆ人ねしくまひえけしひ又
玉のあやうまゝ及ふとまんをうすれもわうま
せしめ國く又るいさんうくする町もわうさん
のこどとつるをうまをゆるさす泉別き一乃わこ
へ城う一本一村縁千次入垂これとまかり城一
ま乃とさうせのなをねえきん別ねもてまらひ
うふ東やわうせ川さう山うひをて人るのうひ
つれすあふ大なんはうこわうふしと共せん
みられたやううす中すりふ十町のまうりてんく

在義より林川と包たて修くみとたうをいり
うひ頭はくこみ六のふの城のあしひまを掃とが
まといとのゆへさくとゆい辨ふさ候れ業てつ
まうよぶを待さるものともあはれあはれす
とつふま一がうたうひ大軍よこまくのうた上
乃まきうくうくいとるるをうしあひん乃
けういのあしんややうてましし乃まのひりる
際ノ事一教年一今ほ天正十三年一月廿一日
頃くうん産のありけん日らんふまをうのれを
すりふういれらん毎バばさるものちや業
内右を以てけふ所ふと川をまきし免う記てめ大
おろき強ちう一の人数を二すちう一日けらん

たんれ書五らち頭走めうう山あてのせれを二十
二以上十回方路山人教さししのつこおもてり
うくまうふ千石かりううてまもなりひ小志や
せん日本バ儲くし中しく不田は外なりあうと出
入城されあり二十一日ひのあく時とうさ
ぬしこうれとど命を路口一獲し一人志ぬとよせ
一文のううりひよを欲けさやふ味よよとやの
正色預なりおうしや母とつふさ海城さう大はく
小はくよまきとまぬこみ大兵小兵をたしぬとき
まらうけりたりたのふれ清下急といたまう山は
のふあくありとせめと世間ううもなつてけう
きるのあふこふとまきううし中よそとあわら

老成七少をほきてをいたおろく老としはりあ
我うたうしくふと執事入羽繁縁七席とけりあ
あゆのほきとろりあひとわりことうううへ
人殺をまうし四方とうも小せめ入一人とまひと
とくまうしとくし討たてまかりとけううう乃ての
城あれ入てけううのうろくまうろへ敵兵らうく
を引つあけくまもれちよる月所と或は體乃神
うう少の死人とこぼてよびてびうやうをう
夷乃かれ月城これとみく一交りしうきのさ
ううまうと抄ひつあくはてまきとくしうり
つこまうとまおひとまうて同坊三日終しあう
つこまうとくまうとませく事しあうらうの軍

よじりよまもつ家こそ世にゆる事こそ多の山
れつひあさぐんすらすらこの世をうねるこころ
むとひぢりし僧坊がらんく大をりけおく
れつりうけがのをしなりあま乃山のこすよの
かりきふまやまりらもつらまり三日三夜向こ
てくま只らんわうかん一ツさせんくしてるま
乃くふうらん乃くく一は一てうぬらあちるせ
もんしやうへーゆつきして僧坊わらんあん
やうらうらのひこもあけらん國らんひつと
ひしあろ夫取とらるりそ六百年一ちああのひ
ち荒安あいましやみくわふくのまをりい
まくよとわうてまよひくひせう欲まを越とらん

すらすらのちりもせうりんのうにさくくらみりこ
くろくぬのゆるり一あくふこまやくれおや
まゆまやうしやあるり一首はまやうのりい
ふあしうるぬらわらうしはうてたてよ
あまれゆとやれらうはくしん
つほろのんやどろりうくれはら大佛く金毛
よよりて都へひえはたせ太平山のゆりてんと
めらく日さの若しつこまはくらん産る志捨平次を
い一のあまのうりひあのもの風りられこ
く一瘦りあうるあはちけりくへを新あう
しそゆりて下りけふはあまは地内林印ハ
そあんわうりく海系とわうりてこのお太

田とつみふさいふとありとみん百姓の住居の地也
國にひくは井てよめまらなくとりのけさあり一程
ともつて日ひくこつてす人のひくは是ゆらす地家
ふあふらるりれさふあふよけのりふれやう
日ふくくんとれらんれ人物以下といふとらう
せれすうひひと
上羅一たつを 上大夫のりつをむしなも
志く法疎俄くふきをふりくくしくせうら
たきつふはれさくなりさりなりくくの在るう
うひわさううすてけやう然そるをきうよせめを
智人教うんすアしとまんくたひしはれ
たまんきんたんたんく水せめふくう海とす

の也一とつとつてし空うう小はくみとけさ想ま
つりや回十八町れ海田まうりけくうのたりさ六
るまいたひぬくハりんうくくそのかりすりの
ひわさみらんあまうりなり大田の流乃ひひけくみ
もろひきく事ふ志やくけらまと是の人教れ五
なんりんくくとまよみ強く一物けくそのうや
面、小らんをたてけくあうるひれとりす大ふ
小ふうのううよとくさふしとけく目と強く
既もるよ本一村藤平次と石槍兵衛九さ右さぬ
大相として小西石井りらけく木津めや是めゆら
れとれつは海の板乃なりそ天とらのけくもや
下つさあをまきあのかんとそのふくろ野うら

押よすくくう地を山うひこたふふのふしつての
まのるよりすつうの平家約申八川一
しつりふよ約ひひすこすあて何し石清水上
おまのんく川のめひこよこををりたふしくい
こめしき海田のそとあうもこたれちとこしとを
まのすも老まりあのみりすり山もやあつり
わくさんせつひひひししと人れとわこよ
おあやらうす子あういぬりとししひし
ああれまりうけあうと不用とくこく
あししゆの川くらそもれちやうとうちやふ
まは一かひたをあつりえんふ甲年一あふとぬ軍
あこつせんの時ゆのあちやう一不立をうむ

れまやひくよひうひあぐまやくはせりん
不やんよまじひひくあうと口まをま別やん
みき清しやてふ義濃お名秀のくくまゆこき
びのあ國やうこちうふしつひうくつふやを
と山きこくうしせんうくあやまこやう城
ふしあうくる老しつめくし秀あつひは軍らう
とハそりせんれまこましとあうとあうまかん
やうのまこ頭なすあまふまけておあう豊山と云
あてあ城と定免人教をふふらん城ふりれあ
山を國のあ中一まて平地やまおすうやうとふ
あさりあをわのれううましあふ上を留東ま
まれ五川かとなうれくまのみれをう入ふり

そらやーし母ふーして詠来んとてまーへ襟うー
百のふーらんのもん詠や四月何ー先因符詠らん
まつりりりりりりのうー玉けーさよ氣もふもそてー
まゆのれんぬいのすーりてく

うらむて玉川ーし海うらむをながのひまこ

とらりやらうふぬのひえの松

うらうらのぬれ引のまつゆらふあさうーやま
まやうふうていれ寝能なりよのくまん思して
まき子一まをいて國れまやししとまねまこと成
うれテ何太平山のりしーゆこけいお満ししぬい
てさうぬひうらぶらうささぬぬぬれ契ゆく
うんししとーしとのふみくりしとらうーよふ

うんーしつをまゝ ぬふさううけよとつてこふ

すう事わたすすうきつこころすうれのお
まやうそ津りのまとのつをひ玉津津のこころありあ
たまりぬのひえ万年一松

ましく在孫とつるを風まうをやくなまこくハ

しーを後すかへ入る備これ詠詠く人たぐふか
もつてお満のりしぬウくーししののりりや又あ
たうーを産産をばそたんがまんりのひくちや乃
ゆらうかいやうさよふやうハあふあうと産れふ
枝大田修くみへまい御清くまん産を一日こうり
の業乃やーまくらうとがー舞うーまの産取うひ
くれひひとのくもとりまへなうーまそやう詠

とつとれれれ一れいこしくはさるるよと
なして同日又ありのししと帝家そののつこす家
の母ししふりん小とささしううくはまとりんあつ
のわまり方のぬ湯門難ち康たし海人の志のこす
治法まられとありさのし一箱石やう地とほくや
とくまそののなりとさくくをさやうこうとんま
うしそめはあつらんうすひそくうしあれとつ
のさみのし甲斐のしうつひしあやめと
つし長谷のありさのまうたくらうありとつ
くまんしくうれいととれよまてさの只一だん
のまにうすやとれすまてくつさみやと
ちう成はくししとくす事なりさうおの

いづきのほくはく事うてとてこひがへさう
よほそまりとりの日符國ととるさ志よせつと兵
らうとほりりすゆをなりたふれつし月ふ次第結
よ今夜とれたの石ひやうこしとてさやあまのうた
さのつれ川をかあつてあまのひやうらうとと
ひやう田仁た来つとひやうらうまのこしとさの
みふとよあまを垂一白しは本千ひやうまあ面
たけらおはとほれとほくみやうくおましまれ
とよあは日月本とあめん俄うしあゆりて志やち
くこしとくさあ明こうすいしとれかきこくま
らとけらあのみまこしとくさあ明こうすいしとれか
すよとつとて大せれおれらうくは成もつてせ

むらゝんわうありこゝろのれ山をまゝにさし
地ありほう太ししのぬゆいまふりて法人まふて
れいゝなるありのいもふれ派をせんす人し
りれハゆゆるいさうらともつてちやうりさ
まうちくさといひり中一くきんさうもろ
の年一ひきしせん人のまうせりつてあの大
さう法一しゆらうせんやふた政取とのえやく
ちゆ一しあのだうとやくいなゆんこりめ一ハ
本一方あくこれとほりりまふせんさうりゆ
こやうや一てまんのうりおひてにせんあく
のれこやうあらたひまふあらたりせんす
さうらなり一りうをわくすさうりてせんさく

天正記才云終

せうらりをうたふしりしれとまうてうんり
せうれの人のあまを思ふそのまうりまうてません
あつりさうつらんをく

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page. The words are difficult to decipher due to the cursive style and fading, but some legible words include "Dear Mother", "I am well", and "I hope you are the same".

110X
323
9